

随 想

企業組合エム・アール・シー・サービス
はこうしてできた企業組合エム・アール・シー・サービス
理事長 佐藤 邦男

暑中お見舞い申し上げます。

私の所属する組合の設立の経緯をご紹介します。役目を果たしたいと思います。

企業組合エム・アール・シー・サービスは、昭和58年に、組合員8名、出資金100万円で設立。平成15年5月18日に盛大に20周年記念式典を行いました。

「エム・アール・シー」とは、M（町田）・R（リサイクル）・C（センター）の頭文字です。

町田市の現在の人口は約40万7,320人です。昭和33年の市政発足時は約6万1,000人でした。

当時、町田市の「小山田地域」（町田市の北部に位置する）の開発という問題が起こっていました。開発によって、ゴ

ミ焼却場である「町田リサイクル文化センター」の建設が予定され、用地取得が大きな問題となりました。

当時、当該地区は、「上^{かみおやまだまち}小山田町」、「下^{しもおやまだまち}小山田町」、「^{ずしまち}図師町」、「^{ときわまち}常盤町」と言う四つの集落があり、全体の約8割が山林でありました。その中程に10戸ほどの集落があり、尾根の間には田んぼが細長く存在し、各集落は、6尺幅の道で結ばれている、という大変な辺地でありました。

昭和40年頃より、町田市も「ニュータウン化」の波が押し寄せ、日本住宅公団等が団地建設、宅地開発を始めました。その一方で町田市当局は急激な人口増に対して、厳しい対応を迫られたわけであ

ります。学校建設、道路建設、污水处理施設建設等々であります。さらに、昭和43年に当該地区隣接地域に稼働していた旧ゴミ焼却施設は、人口の急増により、ゴミの量が、処分能力の限界を遙かに超えてしまい、周辺の住民に大変な迷惑をかけてしまうという状況になってしまいました。

その当時、周辺住民は「これ以上は、もう ご免だ」という思いが、偽らざる心境でした。

こうした厳しい住民感情の中で、当時の大下町田市長は、問題解決に真剣に取り組まれ、昭和44年に日本道路公団総裁とトップ会談を行い、「小山田団地建設は、環境保全を優先し、自然を生かした団地づくり」を目指し、計画の中に「町田リサイクル文化センターの建設用地

28ha」を確保し、同施設の建設計画を決定したわけであります。

しかし、この建設計画は、当然のごとく、日本住宅公団に土地を売却した旧地主の周辺住民から強い反対が続出しました。これに対して、町田市当局は精力的に建設計画の説明会を実施し、また、昭和45年に、周辺町内会の正副会長や町田市の担当者を交えた「清掃施設建設連絡協議会」をつくり、同建設計画に対して活発な意見交換を行いました。

その結果、「新しい施設は市民生活に不可欠な施設であり、過去のゴミ焼却場のイメージを一新した、全国的にも、モデルとなるような清潔な環境施設とし、地元対策には万全を期す」ことを確認し、地域住民もこれに同意しました。

昭和54年に起工式が行われ、町田市当



局と隣接町内会との協議が行われ、その結果、「先進施設の視察等を踏まえ、周辺地域の環境整備工事の一層の推進と、新しい施設より発生する清掃等の業務は地元住民の活用を優先する」との確約を得たわけです。

その業務の受け皿となった組織が「企業組合エム・アール・シー・サービス」なのです。昭和58年に創立総会が開催されました。

委託業務の内容は、警備業務、清掃業務、造園管理業務で、今も組合員、従業員総勢22名で、精力的に仕事をしています。

お陰様で、今、町田リサイクル文化センターを訪れる人々から、非常に良く管理が行き届いている、とのお褒めのことばをいただいております。今後とも、町田市民、見学者、職員一緒になって、より良い環境作り、より良い施設作りのお役に立てるよう、管理業務に専心する所存であります。

そして、地域住民のより良い就労の場として、末永く活用できることを願っております。関係者の皆様方のご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

(東京都中央会 理事)

